

6年 学年の取り組み



6年生での資質能力育成表より

【実態・課題】

- ・ ICT機器を目的に応じて使うことができる。
- ・ よりよいものを目指して粘り強く活動することができない。
- ・ 自ら進んで、自己の能力を発揮したり、リーダーシップをとったりしようとする消極性が課題である。

6年生での表現力を高めるために

【学年仮設】

- ・学習意義を明確にし、表現の場など学習のゴールを設定することで最後まで粘り強く学習に取り組むことを目指す。

→総合的な学習の「災害から命を守る」の学習では、学習形態を個人かグループを選択させ、相手意識をもって発表することができるようにした。学級や学年の中で見せ合い、お互いにアドバイスをすることで原稿やポスターを繰り返し練り直し、粘り強く学習に向かう。

6年生での表現力を高めるために

【学年仮設】

表現の方法を色々なパターンで経験し、表現方法を自分で選択できるようにする。

ロイロノートやパワーポイントなど各教科において学習形態を経験する。その中で自分にとってまとめやすい方法、伝えやすい方法を選択できるようにする。

6年生での表現力を高めるために

【本時の意図】

- ・ 様々な情報が出てくる中で、どの情報を一番伝えたいかを考え、取捨選択ができるようにする。

ストーリー展開を考えていく中で、全体のストーリーとずれていないか、時間内に収まるかどうかなどを考慮する。京都の魅力を伝えるためにブラッシュアップしていくところが見どころである。